

2025年の立春は2月3日（月）です。

節分は2月2日となります！

『**恵方巻き**』節分の日はその年の恵方（縁起の良い方角、2025年は西南西）を向いて食べる太巻き寿司です。福を巻き込むという意味を込めた巻き寿司のため、七福神にあやかり7種類の具が入った太巻きが望ましいとされています。



巻き寿司を鬼の金棒に見立て、それを退治する意味もあるとか。福やご縁を巻き込み、1年の幸せや願いが叶うよう食べるため、縁が切れたり、福が途切れたりしないよう、包丁で切らず丸ごと食べると良いとされています。

『**節分**』と言えば、豆まきをして鬼を払う風習が知られています。ではなぜ、立春の前日である節分に鬼を払うのでしょうか？それは、二十四節気の順番において立春が1番目だからです。二十四節気で1番目ということは、1年の始まりにあたる日が立春ということになります。したがって、その前日である節分は大晦日と同じような意味合いを持っています。古くから、立春は正月と同様に1年の始まりの日として考えられてきました。そのため、「新しい年が来る前に、厄を払っておこう」という想いを込めて、大晦日にあたる節分の日には豆まきをするようになったといわれています。



『**初午（はつうま）**』は毎年新暦の2月の最初の午の日で、稲荷信仰に基づく行事が行われます。

2025年の初午は2月6日（木）です。

初午の行事は、京都の伏見稲荷をはじめ、大阪の玉造稲荷、愛知県の豊川稲荷など、各地の稲荷神社で盛大に祭がとり行われ、五穀豊穡や商売繁盛を祈願します。

また、いなり寿司などの伝統料理を食べる地域もあります。

稲荷神社とは稲荷をまつた神社で、京都市伏見区の伏見稲荷大社を総本社とします。

その昔、2月の最初の午の日に、穀物の神様が稲荷山（伊奈利山）に降り立ったとか。

この故事から、「お稲荷さん」の名でおなじみの稲荷神社で祭事が行われるようになったとされています。旧暦2月の初午の日は今の3月にあたり、ちょうど田んぼや畑の準備を始める時期だったため、豊作を願って稲荷神社に参拝する習慣ができたという見解も。

ちなみに、稲荷の名は稲作の「稲生り」から来たともいわれています。



『門々の 下駄の泥より 春立ぬ』 小林一茶

意味：それぞれの家の門を下駄の泥が汚している。春が来たようだ。雪解けや雨で土がぬかるんでくると、春が来たという実感がわきます。通りすぎる家の門がみな下駄についた泥で汚れていることで、立春の日であることに気がついたかのような句です。